

開講期	2026年度前期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	4263 群島論			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	○	全学開講	○
曜日時限	木曜4限				
教室	H405教室				
代表教員	上野 俊哉				
担当教員	上野 俊哉				
テーマと到達目標	「群島」 archipalegoとは何か？ 島の連なりともとれるし、多島海（たくさんの島がある海）というふうにもとれる。たとえば、なぜ日本列島と呼び、日本群島とは呼ばないのか？ 奄美群島や沖縄の群島という言い方があるにもかかわらず。また対立する概念である「大陸」と「群島」はどのような関係にあるか？				
概要	島についての研究であるのみならず、群島は都市や山のなかにも見いだせる。このことは世界中の多くの文学や思想が問題にしてきた。さらに多くの研究者や批評家がネット、情報の海にも群島を見いだしてきた。先鋭的な諸理論と二〇世紀の精神史を遠して、様々な出来事（戦争、事故、厄災、虐殺、差別、祝祭、儀礼、日常生活、娯楽、音楽、ダンス、芸術、文学その他・・・）をたどりながら紹介し、日常に応用していく。たまに『ゲド戦記』の話をするかもしれない。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員（複数の教員が担当する場合のみ記載）	授業方式
第1回	群島論とは何か？				対面授業
第2回	「黒い大西洋」、アフリカ、カリブ海、奴隷制、プランテーションと群島				対面授業
第3回	言葉のトポス、レトリックの場としての群島				対面授業
第4回	群島としての都市 アムステルダム、マカオ、ジャカルタ、スプリト、横浜・・・				対面授業
第5回	群島としての里山				対面授業
第6回	開高健 『輝ける闇』『ベトナム戦記』を読む				対面授業
第7回	エドゥアール・グリッサンの群島論				対面授業
第8回	群島の女たち1 石牟礼道子とゾラ・ニール・ハーストン				対面授業
第9回	群島の女たち2 石牟礼道子とサイディア・ハートマン、マリーズ・コンデ				対面授業
第10回	安部公房、『砂の女』のうちに「島」を見いだす				対面授業
第11回	安部公房、『第四間氷期』、水没する日本と世界、上田早夕理、『華竜の宮』を読む				対面授業
第12回	中上健次1 半島と群島				対面授業
第13回	中上健次2 『異族』を読む				対面授業
第14回	李情和 『つぶやきの政治思想』 群島としての濟州島、「半島論」の可能性				対面授業
第15回	日常生活に「群島」を見いだす				対面授業
成績評価の基準	学校ではなく、大学なので出席は一切とらない。出席点が欲しければ、発言すればいい。講義中にふれた著作、論文などを読み、それらの概念や方法を使って、自分で問いを立てて書くこと。2800字以上。自分がなぜそのように考えるかを、理由や論拠を他から（人や本、出来事など）例にとって引くことで考えていることを言葉にしてみる。感想のみは不可となる。レポートは「である、だ」調で書くこと。「ですます」調は不可。				
履修にあたっての留意事項	大学での学びにコスパやタイパを求める人には向いていません。学生をお客さまや消費者と思ったことはないし、これからもありません。単に学び逸れる大人の一人としてあつかります。今は活字や本が嫌いでも、これから本を読むことがすきになりたい人に向いています。授業公開の制度には一歳エントリーしない。理由は大学の講義にニセ学生がいるのは当たり前のことだから。和光の教職員は授業公開の制度、仕組みに関わりなく、いつでもわたしの講義を聞いてもらってかまわない。ただし、参加する場合、一声かけていただく。関係性（ラポール）はあらかじめ、そちらからアプローチして築いていただく。				
オンライン授業方式(同時双方向)					

型・オンデマンド型)の詳細	
【種別】人数制限(抽選)授業の優先条件	

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用			
教科書		教科書(ISBN)	
参考文献	膨大にあるので、そのつど紹介する	参考文献(ISBN)	

◆合理的配慮

本学における修学支援基本方針について	<p>本学における修学支援基本方針は以下URLを確認してください https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html 合理的配慮を希望する場合は基本方針およびシラバスを熟読の上で申請すること</p>
--------------------	---